

今回は、ひきつづき以上のような基本的立場に立って従来の慣行を分類・整理し、更に検討を加えた。すなわち主として洋裁製図における線の使い方・寸法の表示法等について妥当と思われる方法の設定を試みた。

B-9 被服構成製図の Standardization について (第2報)

青山学院女子短大 中村 ヨシ
深谷 浩
○原田 藤枝

被服構成に関する製図が不統一である現状並びに大量生産方式の増大の傾向にあることに鑑み、第1報では現状の検討、被服構成製図の特殊性等について研究討議を行ない、ある程度の基準を設定することが望ましいこと、並びに次のような Standardization の方向づけを得た。

① 中学・高等学校教科書及び大学教科書程度の範囲について行なう。

② あくまで被服構成製図の独自の立場を考慮して、従来の慣行を尊重すると共に、他の分野の製図法に準ぜらるものは、これに従って学習者の負担の軽減を計る。

③ 製図作業の能率を考え、なるべく誰にも理解し易く受け入れ易い方法を取り入れ、誤解をまねかない範囲で簡素化を計る。